



お正月（ミャンマー編）

1. はじめに

ミャンマー大使館（東京都品川区）は、桜並木に囲まれた小高い丘の上にあります。その桜が散り始める4月中旬、本国ミャンマーは新年を迎えます。本稿では、ミャンマー人の暑くて熱いお正月の様子を紹介します。

2. Water Festival

ミャンマーのカレンダーでは、4月中旬（2014年は4月12日～21日）に祝日が設定されます。この時期に、新年を迎えるお祭り”Water Festival”が開催されます。ミャンマー人にとって、最も暑い時期に行われる、最も熱いお祭りです。Water Festivalの開催期間中は、行政機関をはじめとして、多くの商店がシャッターを閉め、町中がお祭りムード一色になります。

Water Festivalは、バガン王朝（849～1298年）の時代から続く伝統行事。人々は、心身の邪気払いと平和への祈りを込めて新年を迎えるべく、互いに水を掛け合います。

Water Festivalは、誰でも参加可能。国籍はもちろん、性別や宗教も問いません。

Water Festivalの楽しみ方は人それぞれ。例えば、若者は、水の掛け合いを楽しむ一方

で、年配者は、修道院で、ダルマの教えに耳を傾けます。

Water Festivalでは、音楽（Thingyan music）も見所の一つ。人々は、伝統的なメロディに乗って、歌や踊りを楽しめます。特に、ミャンマーのシンボルともいえるパダウ（padauk）という花の色にちなんだ鮮やかな黄色い衣装と髪飾りを身に付けた踊り子には、多くの聴衆の目が集まります。ミャンマーの女性は、このパダウカラーの衣装に身を包むことに誇りを覚えるほどです。

3. 正月料理

Water Festivalの期間中は、ミャンマーの各地で様々なお正月料理が食卓に並びます。ここでは、その一例を紹介します。

●モンロンイエポウ（mont lone yeibaw）…椰子糖入りの餅を茹でたもの。ココナッツパウダーをまぶして食べる。

●チェンドル（mont let saung）…東南アジア全域に広がる伝統的な菓子。ココナッツミルクに米粉のゼリーを混ぜたもの。

●シェインアイ（shwe yin aye）…ココナッツクリームシャーベット。パンや寒天をココナッツミルクにまぜたもの。独特の食感が特徴。

●ティンジャンライス（thingyan rice）…モンという仏教徒の祭事で食べられる伝統的な料理。米、魚の干物に揚げ玉葱のチップを散らして食べる。

●モヒンガー（mohinga）…米粉の麺を魚のスープで食べる。ベトナムのフォーに近い。正月に限らず、ミャンマーでは朝食としてもポピュラーな料理。



〈2014年4月のミャンマーのカレンダー〉



〈モヒンガー〉

4. 習慣

Water Festival期間中は、ただお祭り騒ぎをするだけではありません。人々は、正月が近づくと、家中のありとあらゆる場所の大掃除に取り掛かります。大掃除にひと段落着くと、今度は飾り付け。家庭の準備が万端になると、人々は、金品を寄付するためにパゴダ¹へ繰り出します。なお、パゴダは、ミャンマーの人にとっての心の拠り所。大小様々なパゴダが、ミャンマーの各地に点在しています。平日の夕方でも、パゴダには老若男女が集い、祈りを捧げています。

日本と同様に、離れて暮らす家族の元への帰省ラッシュの時期でもあります。ミャンマーの人々にとって、年長者（特に、両親）はとても大切な存在。一年の計を立てるこの時期は、そんな最愛の家族と共にお袋の味に舌鼓を打って一年の労を癒します。

この時期は、仏教徒にとっても重要な時期。大人は、お清めの儀式に参加し、子供は、修道者見習いになるための儀式に参加します。Water Festivalで心の底から盛り上がった後、宗教行事で心身を清め、新年のスタートを切る。これがミャンマースタイルです。

5. むすび

ミャンマーの正月は、一年で最も熱い時期。日本人にとっては、屋外を歩くのもツライ季節ですが、Water Festivalに参加して、



〈首都ネピドーにあるパゴダ〉

新年度のスタートを切ってみてはいかがでしょう。

- 1 仏塔。華やかな金色や電飾に彩られており、日本の寺院とは一線を画している。観光客も多く、無料WiFiが利用できる場所もあり、インターネットカフェのように利用している人もいるらしい…。

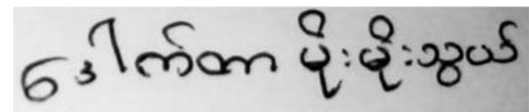
筆者紹介

Dr. Moe Moe Thwe (モー・モー・トゥエ)

ミャンマー科学技術省 (MOST: Ministry Of Science and Technology) 知的財産部補佐。

1966年ヤンゴン生まれ。ヤンゴン大学理学修士。ナンヤン工科大学 (シンガポール) 博士。専門は応用科学。2004年から知的財産制度の構築に携わる。2013年10月より6ヶ月間、研究生として日本に滞在した。趣味は読書、音楽、ジョギング。好きな言葉は "Good work, Good luck"。名前の由来は "Bring peace to all like raining in hot summer"。

<http://www.most.gov.mm/>



〈Dr. Moe女史の名前のミャンマー (ビルマ) 語表記〉

編集者紹介

木本大介 (きもと・だいすけ)

日本弁理士、GIP東京特許業務法人所属。

1977年神奈川県生まれ。2003年上智大学大学院理工学研究科電気電子工学修了。専門は通信、エレクトロニクス及びコンピュータソフトウェア。企業 (知財部) 3年、特許事務所7年の経験を経て、2013年7月より現職。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>